



書あり 師あり 友あり

74回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます

学校長 平田 高之

公立高等学校学力検査等で慌ただしい日々が続き、急に今日を迎えた気がしますね。74回生の皆さんにとっては、大蔵中学校での3年間、特に最後の1年間はどんな年だったでしょうか。

誰もが経験したことのない新型コロナウイルス感染症対応による2か月にも及ぶ臨時休業、不要不急の外出自粛等、様々な制限の中でストレスの多い生活。学校生活でも、総体の中止、半日だけの体育大会、学年別の文化発表会、そして2度の延期で12月に実施した修学旅行等、今までにない中学3年生としての1年間となりましたが、皆さんは本当によく頑張ってくれました。

皆さんに伝えたいことはたくさんあるのですが、今回は、卒業式予行での式辞内容(昨年度卒業式式辞の抜粋)を改めて紹介します。

今まさに旅立とうとしている君たちに、校長として最後のメッセージを贈りたいと思います。この言葉は、「赤毛のアン」の翻訳で有名な村岡花子さんの実話をもとにしたNHK 朝の連続テレビドラマ「花子とアン」で、主人公の花子が通っていた女学校の卒業式で校長先生が話された内容です。

「今から何十年後かに、あなた方がこの学校生活を思い出して、あの時代が一番幸せだった、楽しかったと心の底から感じるのなら、私はこの学校の教育が失敗だったと言わなければなりません。人生は進歩です。若い時代は準備のときであり、最上のものは過去にあるのではなく将来にあります。」というものでした。

私はこの言葉に出会うまで、自分の教員時代を思い出しても、生徒たちには「大蔵中学校の時代のクラスやクラブが一番良かった、楽しかった」と思ってもらいたいと考えていました。恐らく、君たちの中には、これから先の人生において、今まで経験したことのない厳しい、理不尽にさえ感じる場面に出会う人もいるでしょう。しかし、そんな厳しい時があっても、君たちのこれからの人生は、「夢」や「希望」に満ち溢れ、進歩するものであってほしいのです。

今まで生きてきた十五年間は、将来の「夢」の実現のための準備期間なのです。君たちの最も輝やかな時代は、過去ではなく、未来に待ち受けていなければならないのです。

「努力すれば結果は出る。結果が出ないのは努力が足りないから」世界的なホームラン打者王貞治さんの言葉です。これから皆さんを待ち受ける日本社会は、将来の変化を予測することが困難な時代を迎えると思います。そんな中だからこそ、皆さんには、「夢」や「希望」を失わずに努力し続けることができる人になってほしいと願っています。

東日本大震災が発生してから10年が過ぎ、世界中に新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、皆さんも「当たり前」のことが「当たり前」にできることの難しさと幸せを、改めて感じたのではないのでしょうか。その思いを忘れずに、新たなステージに活かしてほしいと願っています。

最後に

「ありがとう」「ごめんね」「好きだよ」という思いを伝えることができていない人がいれば、できれば今日中に言葉にして相手に伝えておいて下さいね。

いずれにしても74回生の皆さん！本当にこの3年間ががんばってくれてありがとうm(_ _)m

泉市長 卒業お祝いメッセージ

泉市長には、給食の試食に来て頂く予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対応により急遽キャンセルとなり、皆さんは残念がっていましたね。お祝いメッセージを頂いていますが、時間の都合上、卒業式では紹介できませんので、紙面で紹介します。ありがとうございました。



大蔵中学校を卒業されるみなさんへ

ご卒業おめでとうございます。

いま、みなさんは卒業という人生の節目を迎え、それぞれの胸にこれまでの思い出とこれからの人生に向けての新たな誓いを抱いていることでしょう。

本日でみなさんは義務教育を終え、それぞれの進路へ向けて新たな一歩を踏み出すこととなりますが、中学校生活で学んだことを遺憾なく発揮され、夢と希望をもってこれからの人生を歩んでいていただきたいと思います。

みなさんの門出をあらためて祝福しますとともに、その前途に幸あらんことをお祈りいたしまして私からのお祝いのメッセージといたします。



2021年3月17日

明石市長 泉 房穂

